

令和5年度 磐田市魅力産業支援会議 内容及び会議録

1 日 時 令和5年12月26日（火） 14時00分～15時30分

2 場 所 磐田市役所 本庁舎4階 大会議室

3 出席者 磐田市魅力産業支援会議委員 11名
事務局（産業政策課、経済観光課）

4 内容

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 出席者紹介
- (4) 議題 磐田市経済産業振興プランのローリングについて
- (5) その他
- (6) 閉会

5 意見等

基本目標1：今を革新し、新たな価値を生む
市内産業の競争力強化と経営革新の促進

委 員・事業進捗管理シートの下の数値目標の最新値について、第1次産業込みが9,833億、抜きで9,791億ということは、第1次産業は42億程度ということか。磐田市は農業が盛んなのでもうちょっとあるかと思ったのだが。

事務局・第2次産業の製造業の利益が、非常に大きいという状況が現状です。

委 員・同じ箇所、目標の数字がコロナ前後で5%しか変わってなく、この数字をあげるために大企業を支援することが効果的になるわけですが、そうではなく磐田に住んでいる満足度合をターゲットにするなど、まんべんなく支援につながるような指標を設定することの検討が必要では。総額にすると目標達成に向けて大企業が優先になると思うが

事務局・前回までの目標は、1人から299人の製造業の製造品出荷額ということで、中小企業の皆さんをターゲットにした数値だったが、今回より「稼ぐ力」に着目し、付加価値を総生産という数字として設定したわけです。理由の1つは、大企業除く数字が統計上なかなか出せない事情がありました。それから、大手企業中小企業はどちらも支援している。ただ、大手企業に関しては、補助金や伴

走支援ではなく、新しい事業を展開する際の環境整備や関係者調整等のソフト的な支援を市と連携をして行っています。中小企業に関しては、専門家による伴走型の支援や企業訪問による課題やニーズをお伺いし、それに対応する予算、事業立てをされるといった、きめ細かい支援のほうに努めていく。以上、市として2軸で進めていきたいと考えている。

委員・次世代モビリティサービスの話の中でビジネスモデルという発言がありましたが、公共交通はビジネスアイデアが求められており、ヤマハ発動機さんが行っているグリーンスローモビリティについて、運行の管理そのものはヤマハ発動機さんが行っていない認識ですが、その認識でよいか。

事務局・運行はしていない。

委員・運行管理者と組合せてビジネスモデルを整理しないと、持続可能性が議論出来ない。という進捗でよいか。

事務局・そのとおり。現状そこを進める必要があるという状況である。

基本目標2：新たなビジネスが価値を生む

新たな成長分野の展開と企業立地推進

基本目標3：新たなプレーヤーが価値を生む

創業促進とスタートアップ企業の育成

基本目標4：人財が新たな価値を生む

人材確保の支援と人材活用の促進

委員・高校生向けに市内企業見学バスツアー3社であるとか、市内高校4校で企業との交流事業を開催というのは、非常に地元で足を付けた政策で結構重要なことじゃないかなと思いました。また、就職などの時に、選択肢が市内でうまく回っていくのは、理想形だと思う。お客様にとって素敵なホテルだと思ってもらうには、やはり1番重要なのは、人材です。宿泊者に「何が思い出ですか」と伺うと、いくらおいしいものを食べても、例えば「旅館の仲居さんがとってもよかった」だとか「従業員がしっかり料理を案内してくれた」など、要するに人にまつわるおもてなしが最後まで残るという事なんです。例えば、高校時代からアルバイトで働きそのまま就職してくれたら、とてもいい理想形だと思う。地元の高校に地元企業を紹介できる環境づくり、そこで人がうまく巡回すれば、非常に価値が高いなと思います。

委員・自分の足で高校に訪問した時、進路指導室に「おいてある企業情報は手薄だと1番最初に感じた。学校側は、授業や部活といった業務の中で企業情報を集め

るのは難しい現状がある。

- ・中小企業を知っている学生は、ほとんど0に近いと感じるので、企業側がもっと学校に情報発信する必要があると感じた。
- ・若い学生でも見やすい会社案内を作ろうということで、20代の従業員で案内を作り、高校に配ることで、自分たちの会社を少しずつ知ってもらえていると感じている。
- ・学生、学校側は実際に欲しがっている情報は何なのか考える必要があるのかなと思いました。
- ・インターンシップについて、企業側からするとインターンシップの中身を考えるのが難しい。小さい会社になればなるほど受入れとしての問題点が多くあります。中小企業が受入れやすくする方法を、もっと丁寧に考える必要があると思います。
- ・県外に進学したとしてもUターンという形で戻ってきてくれるにはどうしたらいいんだろうということを、地元の大学の魅力の発信だけでなく、我々企業側も慎重に考え、もう一步深掘りをできるように、いろんな形で議論していた方がよいと感じます。

委員・ハローワーク磐田です。高校生も含めた新規採用3年以内の離職率が約3割という現状がある。

- ・職場見学など事前に企業を知ることは非常に重要と思う。ハローワークでは、離職者の相談をしており、就職後早くに離職した若い方は「自分がどんな仕事をやったらいいのかわからない」という方が多く、学生だけでなく若年層の方にも、職場見学という機会を提供したい。

委員・働くために人が集い増えるのか、そこの町が好きで働くのか。要するに人口が増えれば働く人が増えるのか。働く人が増えてくれればいいのか。

委員・そこはすごく難しいところだと思う。学生側の視点でいくと、食い扶持を求めている、恐らく仕事をする場があるからする。一方、貢献したいということで住み続けられるか。そういう方も一定数いるが、持続が難しいというのが現代の経済の仕組み。

- ・推測になるが定住人口以外に交流人口や関係人口といった、住む以外の選択肢も出る。そこに磐田市の魅力をどう作るか、が並行して議論しなければ、今の学生に対しての回答がうまく出てこない。これは全国的な課題であり、その議論が必要だと思う。

委員・私のところでは障害者雇用を考えていて、今まで知的障がいの方と身体障がいの方がほとんどのところ、3年ほど前から精神障がいの方を雇用するようになった。ハローワークさんのデータによると、非常に今精神障がいの方が増えてい

るということで、精神障がいの人と接することへの理解不足がどこの企業もあるはず。そこの支援を検討していかないと、働く環境づくりがなかなか進まない。

委員・製造業の方々を支援していく中で、お話に出るのが、働き手がないということです。以前は工業高校から中小企業に就職するお話があったが、最近ではそのような人材でさえ大手企業に就職しており、中小企業にくる人材が僅かで苦労している事業所が多いと聞いている。その対策には自動化を進めていくしかない。特に磐田市は製造業の町であるが、工業高校がない中で雇用を生み出していくことが、商工会議所としての課題で、市と連携をして色々な事業をやっているが、こんなに多くの支援メニューがあったことを僕自身も知らなかった。より市と連携をして、今後こういう事業を進めていければなと感じている。

委員・基本目標4について、私ども大学側のコメントとして受け止めていただきたい。大学は、若い世代に残っていただき、将来活躍していただくことへの責任の一端を担っているが、大学そのものの価値を上げないと入学してくる学生がいらないということで、経営基盤の強化をしていくという点は、民間企業と全く一緒だと思う。これは、県内の高校も同じような感想を持っている。そういう意味では高大だけでなく、職を含めた高大職の連携をうまくループできるように考えている。

・余談だが、ベトナムは約1億人の人口だが日本と違って、人口増加している。日本だけ人口減少で、世界的には人口増加である。そういった外国人の人材についてもこの中に加えていただきたい。

基本目標5：人が集い、新たな価値を生む 人を呼び込む観光・商業の振興

委員・観光パンフレットのデジタル化やDXとかを活用するのは大いに賛成である。今まで短観が3か月に1回くると出していたが、そうすると、1年で分厚い短観資料ができる。それが全国の企業などに送られている。例えば通信費だけでどれくらいの費用がかかるのか計算してみると、1000万程かかっている。それが今日は、QRコード1つ見ることで、短観の見たいところが見れる。観光のほうも今までなら紙をいっぱい印刷し、いろんなところに置いてきたが、知りたい人は何とかする。その手立てにうまくデジタルを使えば本当にいいと思う。

・県外から磐田市へどれだけ来てるかという資料をいただいたが、静岡市の駿河区と葵区が1位2位で3位が豊橋市だった。このデータがどういうことか、ではないが、どういう人が磐田市を訪れてるのか、ということを掴むことは、非常に重要だなと思う。それこそ、首都圏のコーディネーターに、そういうデー

タに関する情報を教えてもらえるのであれば、磐田市の発展に役立つのではないか。

- ・もう1点。歴史に非常に詳しい政治家をうまく活用して、磐田市をどんどん盛り上げたほうがいいと思う。昔は、岡崎からこの磐田、遠州静岡までの地頭は、この磐田に居た。これをいろんな所で宣伝してもらい、磐田は面白いな、というような感じで来てもらうだけではなく、お金を落としてもらうような施策が必要である。

- 委員・地域の資源として眠っているものがあって、特に歴史関係ということで、徳川家康の墓が城山の所に居城しようとして交渉してたことを知らなかったが、興味を持ち始めて、地域資源的な歴史などがいっぱいあることに気づいた。住んでいる自分たちがそれを知る必要があると思いますし、市の方でもしっかり発掘して公表していただきたい。そして、磐田市の情報を日本全国というか世界へ発信していただきたいと思う。海外の観光客は何を見て、日本へ来て歴史などを知らるか。やはり SNS やインターネットを介して情報を得ており、日本人よりも理解している。
- ・地域資源をたくさん活用しながら磐田を良くするための発信をしていけたらと思う。

- 委員・若者の6割ぐらいは3年でやめているという話を聞いた。今の時代は、3年で辞めるとして取り組まなければ思っていて、機械化するのか次の世代にどうつないでいくかを考えている。
- ・磐田市は一つ一つの施策が素晴らしく、市として頑張っていると思うが、この「魅力産業創造都市いわた」という意味において、他の市とどう違うのか、もう1つ大儀を作ってもらいたい。磐田は生産から消費まで全てが循環出来る。という「SDGsのまち」のような大義にみんなに向かっていく中で、市には潤滑油的に動いていただき、そういう都市を目指してもらいたいと強く感じます。

- 委員・隣に浜松市がある関係で、市民が常に浜松のほうに出かけて、そこでお金を落としているということがあり、いろんなイベントを開催してくれという要望をいただいている。
- ・観光レクリエーション施設を生かしたまちの活性化の中に、福田の漁港やしおさい竜洋のことが何も書かれていないことに疑問を感じている。しおさい竜洋のようなキャンプ施設は他の地域に中々ないので、そういう施設を生かし切れていない部分もちょっとあるのでは思っている。

- 委員・浜松市の大河ドラマ館で開催したクリスマスイベントに1番人がいたのは磐田市だった。理由は、しっぺいのグッズが揃っていて配布物がいい。進捗管理シ

ートにはない細かいところを地道にやっていると感じた。

- 委員・基本目標5は総じて、磐田市には魅力的なコンテンツがあるというところに通じると思う。これにはコンテンツツーリズムという手法をもとに周遊していただくという仕掛けができると思う。
- ・交流人口に関する情報をオープンデータ化することが必要かと思う。私自身もそういったデータを毎日分析していますので、ご協力できる。
 - ・農業の話で、一つ魅力的だと感じたのが赤ビーツという食材から北海道の空港と静岡の空港を繋いで、磐田市と北海道をつなぐプロジェクトを今やろうとしている。
 - ・観光と農業産業の融合はいくらでもできる。

全体を通しての意見

- 委員・基本目標2の新たな企業立地について、今の補助金は規模が大き過ぎて大企業しか入ってこれない状態。もう少し小さな資本金で補助金も半分でもいいので、地元企業や中小企業に活用してもらおうことで、空いている土地に企業を入れるということも、検討していただきたい。

最後に

- 事務局・経済産業振興プランの進捗について、頂いた意見をもとに事業の改善、事業者の支援に取り組んでいきたい。